

米国には、大都市を中心に日本人の高齢者が多く永住しています。個人的な理由から、日本への帰国する選択を取らずに、米国にある民間の老人ホームに入居希望する方が大半です。

ここ米国西海岸に限れば、その数は顕著であり、需要はあっても供給が追いつかないのが現実です。加えて、最低賃金の上昇に伴い、係る経費には抑制できる要素も限られています。

また、これらのテーマについてアンケートを行ったところ、施設に対して提供されるサービス内容についてほぼすべての入居者が一致しているのが、

- 日本語でのサービス提供。
- 日本食の提供。

です。

このような事情を考慮するにあたり、メキシコ北部に位置するバハカリフォルニア州、特にティファナにて老人ホームの建設と運営ができるかどうかを考えてみました。

現状では、ティファナ地域の状況として：

- 2019年現時点にて、メキシコの最低賃金は、一日10ドルが定められています。
- 比較的、英語を話せる人が多くいる。
- サンディエゴから近い。
- 国境地域ということから2019年から消費税が8%に軽減された。
- 施設内に勤務していただく日本人に対して就労ビザ取得が比較的容易である。
- メキシコ全般に言える「治安の悪化」は改善されていませんが、入居者が施設内で生活することを前提に考えると、先のマイナスの要素は限定的と考えても問題ない。

そこで、ティファナに立地するパシフィックオーシャンが眺望できる場所に土地を購入して、日系老人ホームの建設とその運営ができればいいと考えます。

小林